

発生予察情報

特殊報第3号

平成24年2月16日
秋田県病虫害防除所

りんごでのヒメボクトウの発生について

1. 病虫害名：ヒメボクトウ *Cossus insularis* (Staudinger)

2. 発生作物：りんご

3. 発生の経過

平成23年6月に県南部のりんご園において、枝幹部への穿孔による虫糞、木屑の排出がみられ、被害部位を解体したところ体長10～20mmの赤紫色をした芋虫状の幼虫が多数穿孔食害していた。

被害状況および幼虫の形態からボクトウガの一種であると考えられたため、農林水産省横浜植物防疫所新潟支所に同定を依頼した結果、チョウ目ボクトウガ科 (Cossidae) の一種であることが判明した。

また、被害のあった園地を含む県内5地点のりんご園にヒメボクトウ合成性フェロモントラップを設置したところ、一様に7月中下旬に多数の誘殺が認められた。誘殺された成虫を同定した結果、ヒメボクトウであることが確認された。

なお、本種による本県での発生は平成20年になしで初めて確認されているが、りんごでの確認は初めてである。なお、りんごでの被害はいくつかの県で報告されており、東北では福島県、岩手県で報告されている。

4. 特徴

(1) 卵は卵塊で粗皮部に産みつけられる。

(2) 幼虫は赤紫色をした芋虫状で、大きいもので約40mmになる(図-1)。幼虫で越冬し、孵化してから成虫になるまで数年を要すると考えられる。幼虫は枝幹部に直径約5～10mmの孔をあけ、集団で穿孔食害する。

(3) 成虫は開長約35mm、全体に灰褐色で前翅には黒色の筋状の模様が見られる(図-2)。

平成23年の本県での合成性フェロモントラップへの誘殺は7月上旬から確認され、7月中下旬を誘殺盛期とする一山型の誘殺消長となった(図-5)。

(4) 5月中旬頃から枝幹の被害部位で虫糞と木屑の排出が見られ、被害の著しい部位では樹液と排出物で樹皮表面の汚れが激しい(図-3)。また被害部位を解体すると木質部の中心まで縦横に穿孔食害跡が見られる(図-4)。

(5) 被害部位は主枝・垂主枝で多く、特に枝幹の分岐部周辺で多い。被害部位より先の枝幹は衰弱し、生産性が低下する。

5. 防除対策

(1) 枝幹の被害部位は幼虫の穿孔部位ごとせん去し、焼却処分する。

(2) 樹勢の低下が被害を助長しているおそれがあるので、樹勢の維持、強化に努める。

(3) りんごで本種に登録のある防除剤は生物農薬のスタイナーネマ・カーポカプサエ剤(商品名：バイオセーフ)である。

(4) 上記防除剤を使用する際は指導機関の指導を受ける。

6. 資料



図-1 ヒメボクトウの幼虫



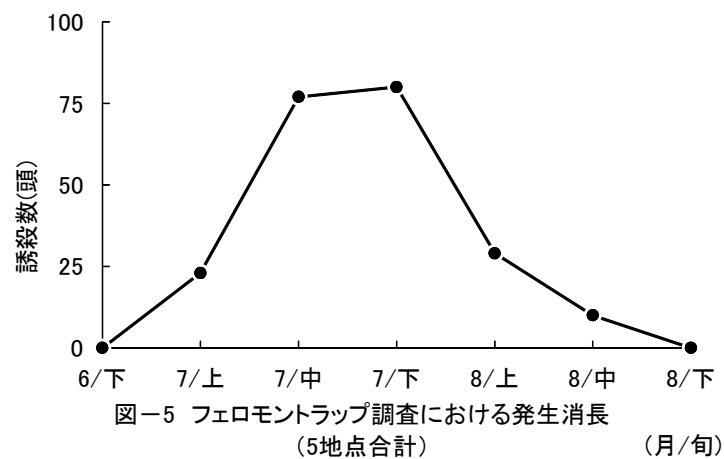
図-2 ヒメボクトウの成虫



図-3 穿孔食害跡



図-4 穿孔食害跡(断面)



【 問い合わせ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-860-3421
秋田県農林水産技術センター		
果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		